

平成30年度第1回観察会 記録

日 時	平成30年4月15日（日）～16日（月）	
観察地	佐賀県藤津郡太良町大浦 NPO法人シニア自然大学校自然学講座アサリ再生実験区	
講 師	田中 克 京都大学名誉教授 当講座コーディネーター	
テー マ	アサリ再生実験区におけるアサリ生育状況の確認及びアサリ収穫祭参加	
備 考	参加者数 計23名（含、田中先生、鳥取環境大学生 森光健太君）	記録 藤原

1. 今回は現地集合・現地解散方式とし、ほぼ全員が博多駅もしくは新鳥栖駅から特急かもめ13号に乗車し、肥前鹿島駅で合流した。蟹御殿の送迎車で、一路、諫早湾潮受け堤防見学へ。両サイドの閑門を除き、すっかり土固めされた堤防を目の当たりに見て、認識を新たにしたとの意見が多く聞かれた。正午ごろに宿泊所の蟹御殿に到着、着替えてアサリ調査を行う実験区へ出発した。



諫早湾潮受け堤防

2. 実験区前の砂浜では、田中先生や実験区提供者の平方宣清さん、鳥取環境大学生の森光君もすでに待機し、アサリ収穫祭参加の老若男女5～60名も集まっていた。「熊本産」アサリと地場大浦産アサリの味くらべなどの企画も後ほど催された。



干潟に集まった人々

3. アサリ生育調査の実験方法は昨年度と同じ。但し、キレートマリン散布区と対象区の採取箇所数は、昨年度は1対であったが、今回は3対にした。
 4. アサリ検体採取後は、周辺の子供たちの歓声に混じりながら、各自童心に帰ってひたすら潮干狩りを楽しんだ。収穫物は翌朝味噌汁でおいしくいただいた。
 5. 蟹御殿内に場所を提供してもらい、採取したアサリの寸法（横幅、厚み、縦幅）をノギスで計測し記録。昨年度に比べると個体数が少なく、特に稚貝の少ないのが気になった。



アサリを型枠内から採取

- 計測結果は、鳥取環境大学生の森光君の卒業論文作成の基礎データの一部として利用してもらうよう森光君に提供した。
 6. 計測中、同場所でアサリの浄化作用を調べる実験をした。約500ccの濁りのある海水中に10個のアサリを入れると約2時間で海水は透明になり、アサリの浄化能力を体感できた。



7. アサリのサイズ計測が終わり、夕食会でお招きした平方さんから有明海漁業の現状を説明していただいた。厳しい状況に変化はまだ見えないが、大阪の我々が関与し訪問することに対し、たいへん喜んでおられるとのこと。全員で、平方さんへ激励を送った。

8. 翌朝、大浦駅で平戸などへ向かう人たちと別れ、柳川の有明海水族館へ。小宮春平館長から最新の活動状況を聞いた後、各自のスケジュールで行動。8名は柳川の舟下りを楽しんでから博多駅で解散した。

「雑感」

前日が雨で天候が心配でしたが、幸い快復し順調に予定を消化することができた。昨年よりもアサリの数が少なく感じたことが気になつたが、来年もまた来るぞという参加者の言葉に意を強くした。

右写真：アサリ採寸

寸

